

ニュースレター (No. 34)

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、会員の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

昨年 14 (2002) 年 12 月 7 日には福山に於いて通算第 47 回の研究例会を開催しましたが、それに先立ち財団法人義倉の理事長河相典男先生の特別のご好意によりご所蔵の貴重書を拝見させて頂く機会を得ましたことは何にも代え難い有意義なことでありました。厚くお礼を申し上げます。研究例会は今回もふくやま文学館会議室をお借りすることが出来、研究発表が行われ質疑応答と情報交換がありました。熱気のコもった雰囲気の中で時間が足りないという風のものでした。義倉蔵書の特別見学から例会終了後の忘年懇親会までのすべてを元支部長の妹尾啓司先生がご準備くださいました。出席者全員とともに心から御礼申し上げます。

新しい年、平成 15 (2003) 年が実り豊かな年となりますよう努めて参りたいと願っております。これまで同様に会員皆さまの暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成 15 年 1 月

日本英学史学会広島支部支部長 松村 幹 男
同 代行 小 篠 敏 明
他 会 員 一 同



平成 14 年度第 2 回支部例会、福山大会開催

去る 12 月 7 日（土）妹尾啓司先生（前支部長）の格別のご尽力により、本年度第 2 回（通算第 47 回）例会が福山市・ふくやま文学館で 16 人の参加者を集めて開催された。今回は特に特別企画として午前中に「福山義倉」の貴重な蔵書見学があり、午後には 2 件の研究発表があり、実り多い研鑽の集いとなった。大会プログラムは以下の通り。

また、例会終了後、福山駅前割烹「つばい」に場所を移して支部の忘年懇親会も行われ、和やかな親睦のひとつとなった。

平成 14 年度第 2 回（通算第 47 回）研究例会

日時 平成 14 年 12 月 7 日（土）午後 2 時～ 5 時

場所 ふくやま文学館（JR 福山駅北口から西北へ徒歩 8 分）

（〒720-0061 福山市丸之内一丁目 9 番 9 号 TEL 084-932-7010）

特別企画 「福山義倉の蔵書見学」 午前 10 時～

役員会（13:00～13:40）

会場受付（13:40～）

開会挨拶（14:00）

支部長

松村 幹男

役員会報告

研究発表

（1）「新しい浅田栄次研究の展開」

司会

桜ヶ丘高校

河口 昭

香川大学

竹中 龍範

（2）「平川唯一とカムカム英語」

司会

広島大学

田中 正道

広島大学

深澤 清治

閉会行事

閉会挨拶

副支部長

小篠 敏明

ふくやま文学館・ふくやま美術館見学

忘年懇親会（17:00～） JR 福山駅前割烹「つばい」

役員会報告

1 次回開催時期と場所について

第 48 回例会は、5 月 24 日（土）に安田女子大学を会場に開催の予定。

2 会報のバックナンバー販売について

1 部について 1,500 円（送料込み）で希望者に頒布する。本部ニュースレターに案内を載せる。

200年の歴史を刻む福府義倉の蔵書見学

12月9日、妹尾啓司先生のご配意と義倉理事長河相典男先生のご好意により貴重な珍本古書に触れる機会を得た。

1 福府義倉

義倉とは、凶年に窮民を救う目的で、日ごろ貧富の差に応じて穀物を徴収し、蓄えておく倉のことで、中国では北斉、隋、唐で行われ、日本でも律令(701)に規定されたが、まもなく廃絶。江戸時代には、米沢・弘前などで藩の事業として設けた。

一方、福山の義倉は、庄屋の遺金、豪商、義人の拠出金を藩侯に献上して、藩の庇護と協力で、全国に例を見ない一大民間救済組織となり(1804)、「福府義倉」と命名された。この組織は、あまたの飢饉を乗り切り、農民一揆を沈静化させ、機能した。さらに、注目に値するのは、救済活動を行いながら、一部の資金をさいて、医師育成・儒学振興の助成、神道・仏学の講釈等の文化教育活動を行い、また著名図書の購入をしたことである。

著名図書の購入の例 『俳文韻』九十九面 代金 銀一貫七百八十一匁五分五厘 一面 = 銀 六十四匁二分

文化的事業の例 藩校「誠之館」の初期 金子五両を寄贈した記録があると聞く。

2 福山藩藩校「誠之館」

藩の指導者の外国文化導入という進んだ考えに基づき、貴重な和蘭、仏、英、漢等の書籍を多く入手した。医学、法律、経済、社会、芸術、地理、理学とジャンルも多岐にわたっている。この書物を活用して優秀な人材を多数育成した。明治

に入り、廃藩置県となり、この藩校が終焉を迎えたとき、知事の要請により、福府義倉は誠之館の書物を買収している。当義倉の書物に「誠之館」の蔵書印があるのは、これがためであろう。

誠之館の蔵書の行方についてのベルト、疎開が間に合わず、福山空襲により 1/3 は灰 燼に帰し、一部は盗難、さらに、何らかの理由で行方不明となっている。しかし、其のなかの一部は、国会図書館、岡山中央図書館、長崎大学経済学部等の蔵書中に生きていと聞く。多くの人に活用されれば、喜ばしいことである。

3 「英語箋」

福山義倉の古書の中で、筆者の目を引いたものである。W. H. Medhurst のバタビア版『英和・和英語彙』1830年(天保元年)を翻刻したものである。訳語はローマ字の綴りと片仮名、時々漢字で書いてある。実物を手にして見ると、著者がローマ字の表記に大変苦労したことがうかがえる。ローマ字は o ウ、mo ム、などと変則である。

「英語箋」

前編 安政4年(1857) 英和3冊 井上修理 村上英俊閱

後編 文久3年(1863) 和英4冊本の1冊 室岡東洋 上原塙一郎校定 発行書林 江戸山城屋佐平 装幀 和装、美濃版型

本書は我が国で最も早く刊行された四種の英語学書の一つである。他の『英吉利文典』等と異なり、和蘭語を媒体としないで、不完全ながら直接、日本語の訳語により、学習を可能にしたことは、大いに評価できる。発行の狙いは、英人に日本語を学ばせるためのものであったと

いのであるが。このような意義ある書物に触れることが出来たのは誠に幸運であった。

参考図書『日本英語学書志』荒木伊兵衛著 昭和6年 創元社

保管上の理由で、福山市民図書館に寄託された(昭和51.10)洋書貴重本古書を書き留めておく。(上杉 進)
(紙面の都合により6ページ下段に掲載しております。)

新しい浅田栄次研究の展開

河口 昭先生(桜ヶ丘高校)のご発表から

本発表は、徳山の英学史、中でも同地出身の浅田栄次の研究を意欲的に進めておられる河口先生が、これまでの浅田栄次研究の軌跡をたどり、その近況をまとめられて、今後の抱負を語られる形で行われた。

「浅田栄次再評価の軌跡」と題する第一部では、昭和31年、昭和女子大学の『学苑』に戸塚文子氏による浅田栄次の調査研究が掲載されたのが、浅田研究の嚆矢であると位置づけられた。その後の浅田研究は昭和61年まで待たねばならないが、この年にはアメリカで発行されている日系人向け月刊誌 Mid American Guide (May 1986)に奥泉栄三郎氏による「シカゴ大学博士第一号は日本人だった!! - 浅田栄次備忘録 - 」が掲載され、同年6月には、河口先生が「徳川英学の系譜」と題して JACET 中四国支部大会にて発表され、浅田栄次を取り上げられている。この時、河口先生は奥泉氏の記事は把握しておられなかったとのことで、奇しくも太平洋兩岸で時を同じくして浅田栄次再評価の端緒が開かれたことになる。その後は、日本では徳山と東京外国語大学、米国ではシカゴ大学を中心に、それぞれ浅田の再評価・顕彰が進められてきたと、

年表によってまとめられた。

第二部「浅田栄次再評価の近況」は、平成14年中における関連事項を列举され、特に地元での浅田再評価が進んでいることを述べられた。例えば、4月には徳山市小学校社会科副読本に浅田が取り上げられており、また、桜ヶ丘高校生への講演、小学校での総合的な学習の時間における浅田研究では河口先生自ら積極的に関わられたとのことであった。



最後に、「...浅田栄次研究への新たなアプローチ」として、徳山英学研究会の発足、徳山英学の碑建立などの抱負を語られ、研究成果の地元への還元という地方英学史研究のひとつのあり方を示されたご発表であった。(竹中 龍範)

平川唯一と「カムカム英語」

田中正道先生（広島大学）のご発表から

平川唯一の名前は、終戦直後に自ら作詞した Come Come Everybody（中山晋平作曲 飯田信夫編曲）で始まる放送で日本中に活気を与えたラジオ英語講座「カムカム英語」を担当した人物として、英学史研究に関心のある人なら誰もが耳にした名前であろう。田中先生のご発表は、4部で構成され、平川唯一のラジオ講座の放送時期、講師のプロフィール、「カムカム英語」の輪郭、そして人物、テキストの考察にまで進められた。

第1部の放送時期として、一般に日本放送協会(NHK)で昭和 21(1946)年 2月 1日～昭和 26(1951)年 2月 9日に「英語会話」という番組名で放送されたものであると知られているが、「カムカム英語」という名前は、その後、昭和 26(1951)年 12月 25日～昭和 30(1955)年 7月 30日にラジオ東京をはじめとする民放で放送された時の番組名であることはあまり知られていない。

次に、平川唯一のプロフィールとして明治 35年 2月 13日岡山県での誕生から、大正 7年に兄隆一とともに渡米、昭和 12年に帰国、その後、日本放送協会、太平洋テレビジョンへの就職、そして平成 5年(1993)年に享年 91歳で没するまでの波乱に満ちた生涯を詳細な年表をもとにまとめられた。

さらに、「カムカム英語」の輪郭として、なじみの深いテーマソングの誕生、番組の構成などを詳しく説明された。30数ページにわたる貴重な資料（テキスト）

を資料としてご用意いただき、当時は1日一回だけの放送であったこと、生命会社からビール会社に至るさまざまなスポンサーにより発行されていたこと、など時代背景を知るための興味深い指摘があった。



最後の考察として、題材は平均的な日本人の日常生活で繰り返られる生きた会話を題材としたこと、特定のレベルの学習者のための講座ではなく、初心者から上級者までを対象としていたこと、など、田中先生自らの教材作成者としての視点から、綿密で丁寧な解説をお聞きすることができた。

質疑応答の中で、出身地との関係についてフロアからも貴重な意見・コメントが数多く出され、会場の都合による終了時間がきたことが残念であった。

（深澤 清治）

『英学史論叢』発行と原稿募集について

今年も引き続き第6号の刊行に向けて、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。研究論考、英学史随想、英学史時評、書評等、何でも自由です。多数の応募をお願いいたします。送り先は馬本理事まで。締切は3月25日の予定です。詳しくは『英学史論叢』の執筆要項をご参照下さい。

会費納入について

平成14年度分の会費3,000円をご納入いただきますよう、よろしくお願いいたします。

郵便振替口座 01360-9-43877
加入者名称 日本英学史学会広島支部

日本英学史学会広島支部事務局
〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1-1
広島大学教育学部英語文化教育学講座内
深澤 清治
電話・ファクス (0824) 24-7058
E-mail: sfukaza@hiroshima-u.ac.jp

(4ページ目より続く).....